

新潟県

被推薦者 氏名 近藤 拓自 (こんどう たくじ)

(満42歳 昭和50年2月24日生)

## 1 推薦の理由

被推薦者は、新潟市教育研究協議会や体育授業づくりの研修サークルなどで、研修委員長を勤めるなど、長年、新潟市の研究をリードしてきた。

さらに、新潟県に留まらず、全国規模の研修会にも参加し、自分の提案を世に問い、指摘を謙虚に受けとめ、着実に、自身の体育授業の質を上げてきた。また、指導案検討等における的確な指導にも定評があり、多くの人に頼りにされている。

長年、体育主任を担当し、地味で面倒な仕事も率先して行う姿勢は、校長をはじめ、勤務校の同僚からも高い評価を受けている。

以上のことから、被推薦者は、授業実践者、研究者の両面で、優れた教員である。

## 2 被推薦者の「体育授業」の特徴、指導効果、その成果の汎用性、成果を証明する資料等

被推薦者の体育授業の特徴としては、器械運動領域の系統性を大切に、感覚づくりの運動の取組の工夫が挙げられる。器械運動では、技につながる優しい類似の運動を経験させることで、習得が容易になる。そこで、腕で体を支持することや、逆さ姿勢になって体を操作すること、体を丸めて回転することなどを、遊びの中で楽しみながら行い、技の習得に必要な感覚づくりを重視して体育授業で取り組んできた。

具体的には、低学年の器械・器具を使った運動遊びにおいて、感覚づくりとなる様々な手足走りや、鉄棒でのぶら下がりや回転などの運動一つ一つに動物の名前をつけて掲示物を作り、その動物の動きをして楽しむ授業を展開してきた。また、鉄棒では、ある動物から別な動物に変身する「変身鉄棒」を行うことで、いくつかの運動を組み合わせさせて楽しめる工夫も行ってきた。また、自分が運動を実施しているときの様子を「グッ」「ピタ」などの擬音・擬態語であるオノマトペで表現させ、力の入れ具合や、運動のタイミング、スピード、姿勢について思考させる工夫も行ってきた。

小学校1年生の鉄棒の授業実践では、7つの運動のうち、3つの運動を児童の力に合わせて選択させ、自分の力に合った難易度で3つの運動を組み合わせさせて「変身鉄棒」の発表を行うことができた。楽しみながら動物の動きに挑戦し、繰り返し

行うことで中・高学年の技につながる感覚を身に付けていくことができた。また、マット運動においても同様に、動物の動きを楽しみながら行うことで、必要な感覚を身に付けることができた。

これらのように、さまざまな感覚づくりの運動を動物の動きとして提示することで、楽しみながら運動するだけでなく、児童との間で、運動イメージを簡単な動物の名前だけで共有することができ、「動物の〇〇の動きの感じ」という言葉で、動き方や力の入れ具合についても想起させることができる。被推薦者の勤務する市内だけでなく、県内外からも、動物の提示資料を求める連絡があり、多くの学校で活用されている。

## 3 公的な大会・研修会等で発表した授業実践や講習会の講師を務めた講習内容等の概要

- ・2015年度 学習公開・初等教育研修会(筑波大学附属小学校) 体育科「器械運動を通して身に付けさせたい力を考える(鉄棒運動の授業を中心に)」パネラー
- ・新潟市小学校教育研究協議会 体育部公開授業 平成19年11月14日「基本の運動 器械・器具を使つての運動」新潟市立小針小学校体育館 平成28年度7月6日「ゲーム 鬼遊び」新潟市立東山の下小学校体育館
- ・新潟県体育学会発表 平成21年10月31日「器械運動の技能習得に結びつく動きづくり～前ころがり・前転指導において～」新潟大学 平成28年10月23日「低学年の鬼遊びにおける、思考を伴ったゲーム指導の工夫」新潟大学
- ・平成26年10月29日 新潟市総合教育センター 「表現運動・ダンスの授業」研修座講師

4 勤続年数 21年

## 5 職歴

- 平成9年 小千谷市立小千谷小学校教諭
- 平成12年 湯沢町市立湯沢小学校教諭
- 平成15年 加茂市立石川小学校教諭
- 平成18年 新潟市立小針小学校教諭
- 平成25年 新潟市立東山の下小学校教諭